

八潮街並みづくり100年運動の取り組み報告

八潮街並みづくり100年運動実行委員会では、50年、100年先を見据えて、「八潮らしい魅力ある街並みづくり」に向け、プロジェクトを検討しています。

プロジェクト①

「家づくりガイドライン」の検討

より良い街並みの創出に向けて、街並みを形成している住宅に着目し、市民の皆さんが主体的に魅力ある街並みづくりに取り組めるような手法が必要です。

このため、家づくりガイドラインの作成に向け、建築などの専門家や事業者および市民の方々と、検討を行ってきました。

これまでにまとめたガイドラインの全体イメージを紹介します。
また、このガイドラインについて市民の皆さんのご意見を募集しています。

「人十地域十街並みのつながり」を大切にした家づくり

① 家族の雰囲気伝わりやすい空間づくり

例：吹き抜けや、スキップフロアなど屋内空間の連続性に配慮します。

② 住み心地の良い快適な空間づくり

例：採光、通風への配慮や良好な眺めの場所を確保し、快適でやさしい空間をつくります。

③ おもてなしの空間づくり

例：建物の内外をつなぐ大切な空間となります。魅力的で開放感のある玄関や土間のデザインをしていきます。

④ 屋外のくつろぎ空間づくり

例：日なたほっこや、近所の方とちよつとした話ができるスペース（濡縁やデッキテラスなど）を設けます。

⑤ 緑と潤い空間づくり

例：通りに面して中高木の樹木を植栽し、緑の潤いある癒しの空間をつくります。

⑥ 一体感の感じられる街へ

プロジェクト②

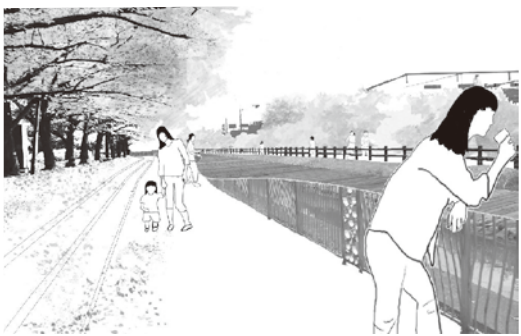
資源活用「まちのツカйкаタ」の研究

「まち」には当たり前のように存在している色々な要素があります。実行委員会では、それらの要素を利用・活用することによって新たな八潮の特徴を生かした街並みをつくれないうかが研究しています。これまでに検討した「まちのツカйкаタ」の内容を紹介します。

(1) 八潮の水に着目した研究

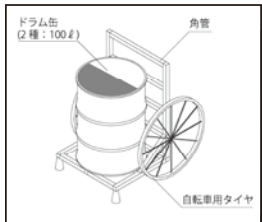
八条用水や葛西用水の水辺は、八潮の特徴的な資源であるとともに、水質の悪化による環境的な問題も抱える場所です。そんな市内の水路の水質調査を行い、さまざまな水辺の活用方法を研究します。

水質の良い水辺に対する研究



水質の悪い水辺に対する研究

グの途中で立ち止まり、憩える場となるよう、カウンターを設置します。



【あまみず缶】

雨水を溜めるタンクを設置し、涼をとるための散水や植物への水やりに使用します。また、溜めた水を水路に流すことで、生活排水が流れる水路にきれいな水を増やすことができます。

水の流れていない水路に対する研究

【水路樹】

枯れた水路に土を盛り、木を植えて公園化します。これまで人が利用できなかった空間を活用するため、緑の道として再生させます。



【用水路タウン】

使われていない水路に滑り台や休憩スペースを設置し、大人が見守れる子どもの遊び場として活用します。高低差を利用し、子どもが楽しく遊べる空間とします。



(2) 防災に着目した研究

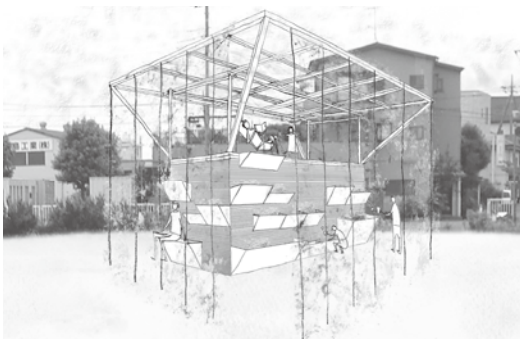
東日本大震災以降、注目されている「防災」に関して、防災倉庫や災害記録を調査し、普段意識されていない防災倉庫の改善方法や新しい防災アイデアを研究します。

防災倉庫に対する研究



【ペイント倉庫】

既存の防災倉庫に、防災に役立つ情報などをペイントすることにより、地域住民の防災意識を高め、親しみやすい防災倉庫になるよう工夫します。

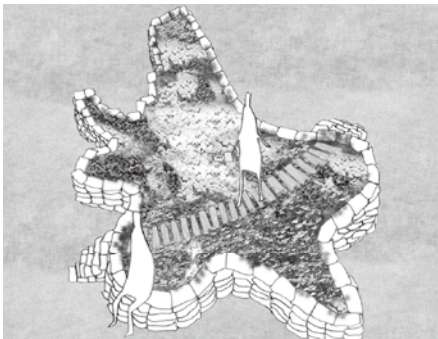


【つたそうこ】

防災倉庫の周辺に鉢植えを設置

し緑化することで、防災倉庫の認知度を高めるとともに普段の生活に潤いを与える空間にします。

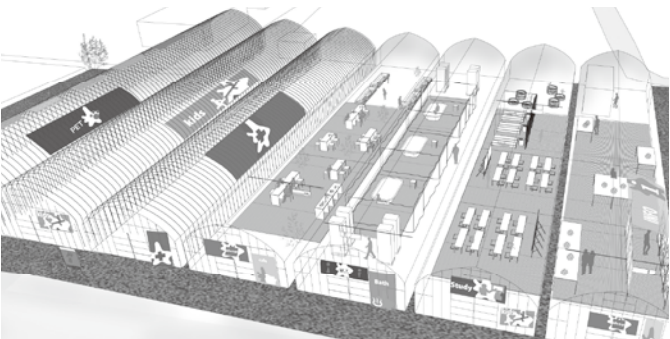
公園の花壇を活用する研究



【フラワーハザードマップ】

水害時の浸水状況を示すハザードマップを花壇で表現します。

農地のビニルハウスを活用する研究



【防災ビニルハウス】

農地に多く点在するビニルハウスを利用し、災害時における避難場所として活用します。